

大学等名	福岡工業大学
プログラム名	AIデータサイエンス基礎(リテラシーレベル教育プログラム)

プログラムを構成する授業科目について

① 対象となる学部・学科名称 ② 教育プログラムの修了要件 学部・学科によって、修了要件は相違しない

③ 修了要件

「AIデータサイエンス基礎」(2単位)を履修し、単位取得すること。

必要最低単位数 2 単位 履修必須の有無 令和8年度以降に履修必須とする計画、又は未定

④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
AIデータサイエンス基礎	2	○	○	○					

⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
AIデータサイエンス基礎	2	○	○	○					

⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
AIデータサイエンス基礎	2	○	○	○					

⑦ 「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
AIデータサイエンス基礎	2	○	○	○					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
AIデータサイエンス基礎	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	【第1回】第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会 【第2回】ビッグデータ、IoT、AI、データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化、人間の知的活動とAIの関係性、複数技術を組み合わせたAIサービス
	1-6	【第8回】AI等を活用した新しいビジネスモデル、AI最新技術の活用例
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	【第3回】調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータ、1次データ、2次データ、構造化データ、非構造化データ
	1-3	【第4回】データ・AI活用領域の広がり、研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービス、仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	【第5回】データ解析(予測、グルーピング、パターン発見、最適化、シミュレーション・データ同化) 【第6回】データ可視化(複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化、挙動・軌跡の可視化、リアルタイム可視化)、非構造化データ処理、特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、認識技術 【第7回】ルールベース、自動化技術
	1-5	【第7回】データサイエンスのサイクル 【第8回】データ・AI利活用事例紹介

(4) 活用に当たっての様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	【第13回】 ELSI、個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、データ倫理、AI社会原則、データバイアス、アルゴリズムバイアス、AIサービスの責任論、データ・AI活用における負の事例紹介
	3-2	【第14回】 情報セキュリティ、匿名加工情報、暗号化、パスワード、悪意ある情報搾取、情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介
(5) 実データ・実課題 (学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	【第9回】 データの種類、データの分布と代表値、代表値の性質の違い、データのばらつき、観測データに含まれる誤差の扱い 【第10回】 打ち切りや脱落を含むデータ、層別の必要なデータ、相関と因果性、母集団と標本抽出、クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列、統計情報の正しい理解
	2-2	【第11回】 データ表現、データの図解表現、データの比較、不適切なグラフ表現、優れた可視化事例の紹介
	2-3	【第12回】 データの集計、データの並び替え、ランキング、データ解析ツール、表形式のデータ

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

<ul style="list-style-type: none"> ・データサイエンスの動向及び分析結果をもとに、これからの社会の在り方を考察することができる素養を主体的に身に付けることができる ・データサイエンス・AIを活用することで人間の生活をどのように豊かなものにできるかという視点を持ち、人間中心の適切な判断を行うために必要なりテラシーを獲得することができる
--

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 令和4 年度

②履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和4年度									令和3年度									令和2年度									令和元年度									平成30年度									平成29年度									履修者数合計	履修率
				履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数																						
				合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性																							
工学部	1,734	380	1,520	68	66	2	43	42	1	0			0			0			0			0			0			0			0			0			68	4%																					
情報工学部	1,715	375	1,500	185	151	34	120	90	30	0			0			0			0			0			0			0			0			185	12%																								
社会環境学部	716	160	700	8	5	3	5	4	1	0			0			0			0			0			0			0			0			8	1%																								
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!																								
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!																								
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!																								
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!																								
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!																								
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!																								
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!																								
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!																								
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!																								
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!																								
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!																								
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!																								
合計	4,165	915	3,720	261	222	39	168	136	32	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	261	7%																								

大学等名

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 人 (非常勤) 人

② プログラムの授業を教えている教員数 人

③ プログラムの運営責任者
 (責任者名) (役職名)

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

 (責任者名) (役職名)

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

⑥ 体制の目的

⑦ 具体的な構成員

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和4年度実績	7%	令和5年度予定	10%	令和6年度予定	12%
令和7年度予定	15%	令和8年度予定	20%	収容定員(名)	3,720

具体的な計画

「AIデータサイエンス基礎」を1年次から履修可能な科目として開講し、数理・データサイエンス・AIに関連する科目の基礎となるものとして、1年次での履修を推奨している。
履修者数の目標は、主に入学定員(915名)に対する履修者数・割合を向上させることを目指す。
そのため、1年生を対象とした入学直後のオリエンテーションで周知を行うとともに、課外で「データサイエンスセミナー」として、学生向けにデータサイエンスに関連する次世代型企業を招聘し、産業界で起こっているDXに対する理解の浸透を目的とした講演会を開催するなどの取組を行い、履修への意欲喚起を図ることを検討している。

令和4年度 7%(261名)【実績】
令和5年度 10%(372名)【予定】
令和6年度 12%(446名)【予定】
令和7年度 15%(558名)【予定】
令和8年度 20%(744名)【予定】

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

「AIデータサイエンス基礎」は、全学部生が履修可能である「教養力育成科目」として開講し、単位取得した際には、卒業に必要な単位に算入できる制度となっている。また、全学部生が履修可能となるよう、学部学科で開講されている専門教育科目時間割との重複に配慮し、曜日・時間を設定しないオンデマンド型授業として開講している。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

2022年度からの開講に合わせ、2022年3月中に大学ホームページ上で科目開講の告知を行った。
また、新生に全員配布するパンフレットに同科目の案内を記載し、新生オリエンテーションの際に、オンデマンド型での運用となる説明の時間を設けることにより、プログラムの目的や意義を周知し、履修推奨の働きかけを行った。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

2022年度に新規開講したプログラムであり、他に全学部学生が履修可能なオンデマンド型授業科目がなかったため、導入となる動画を配信(約5分)することでオンデマンド型授業を履修する心理的ハードルを下げ、履修意欲の喚起を図る取組を行った。また、担当教員が課題の提出状況を丁寧に確認し、提出期限を守って課題をこなすことができるようにサポートを行った。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

授業支援システム(myFIT)を活用し、学生はいつでも質問ができるようになっている。同機能は、担当教員の返信を受けて再質問するなど、何度もやりとりが可能なものであり、疑問の解消をタイムリーに行うことができる仕組みを構築している。
学修ポートフォリオ(FIT-AIM)上の機能である、授業の振り返りの記載、授業理解度を自己評価する機能を活用し、担当教員から学生個別にフィードバックを行うことができる仕組みを備えている。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

FD推進機構教養力育成センター部会

(責任者名) 土屋 麻衣子

(役職名) 教養力育成センター長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	履修者261名のうち合格者168名(全体の合格率64.4%、不合格者35.6%)であった。一方で、不合格者のうち30名は5回以上の欠席(オンデマンド授業のため課題の未提出)者であり、これを履修者の母数から取り除くと合格率は72.7%となる。来年度以降の学生の単位取得率を向上させるため、情報リテラシーや課題提出がおろそかになってしまう者を早期に抽出し、個別に学習支援を行う。
学修成果	AIやデータサイエンスを活用することによって社会がどのように変化するのか、またそうした状況に私たちがどのように対応していく必要があるのかについて論理的に考察できる視座を与えることができた。学期末の学生へのアンケートでは、「人間中心の適切な判断を行うために必要なリテラシーを獲得することが出来た」「近代のコンピュータ技術やデータサイエンスについて学ぶことができた」「AIに任せきるのではなく、どのように使うことで私たちの暮らしが豊かになるかを考えることが大切だとわかりました」等、これからのAIとの向き合い方を考えるきっかけを与える授業とすることができた。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	学生の学修態度としてのアンケートでは、92%の学生が自主的かつ意欲をもって学習に取り組むことができ、同様に92%の学生が全体として意義あるものであったとの回答が得られており、一定の学修成果と共に満足度のある授業が提供できたと捉えている。具体的な学修成果としては、AIに関する社会の動きとそれに合わせた産業構造の変化を中心とした授業を行ったため「専門知識:当該分野において必要とされる専門知識とそれらを活用する能力」が身に付いた60%の回答が得られた。また、動画配信によるオンデマンド型授業形態を整え、提出期限等を厳守への指導を徹底したため、「主体性:自主的、継続的に学習する能力」が身に付いたとの回答も40%得られた。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	学期末のアンケートの中で、次期履修者に向けてこの授業についてのアドバイスを記述してもらった。特にオンデマンド型として運用している点について、「主体性」「継続性」「計画性」を持って受講に臨むことの重要性についてアドバイスがなされていたため、本科目を受講する上での具体的なイメージを喚起することにつながり、受講を推奨することに寄与したと考えられる。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	新入生への全学オリエンテーションの際に、オンデマンド型での運用となる本科目の案内の時間を設けている。また、本科目を紹介するための5分程度の短い動画を配信することで履修率向上に向けて取り組んでいる。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	<p>本科目は、2022年度から1年次生を対象として開講されたため、本科目を履修し、単位を修得して卒業した学生はいない。2023年度から、工学部及び情報工学部において、応用基礎レベルモデルカリキュラムに沿ったプログラムを実施予定であり、それらの科目群を履修した学生の進路・採用状況等を把握していく。</p>
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<p>本科目については、産業界の外部委員が参画する会議体にてオンデマンド講義での工夫や、受講者がデータサイエンスに興味を持つことができる内容であることについて報告を行い、評価を得た。(2022/9/26人材育成協議会)</p>
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	<p>AIやデータサイエンスの身近な活用事例を紹介することで、本科目の学習内容の重要性を具体的に伝えられるように工夫している。また、データサイエンスにおいては、実際のデータに触れることができる演習回を用意した。学生への期末アンケートにおいても、「初めてのオンデマンドでの授業で予定通り行うことが少しできなかったけど、自分のペースで行い、自分が知らなかったたさんの学びを得ることができました。」「説明や例がわかりやすく、図やグラフも多かったため理解しやすかったです」等の回答も得られた。</p>
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	<p>学生の履修状況及び期末アンケートの結果に基づき、授業内容及びその方法の見直しを行っている。特にオンデマンド型の授業形態における履修の姿勢に関しては単位取得に大きく関わるため、提出期限のリマインド等様々な工夫がなされている。</p>

科目名	AIデータサイエンス基礎				
学科		開講学年	1年	開講学期	2022年度前期
科目区分		単位数	2単位	授業形態	
担当教員（カナ）	白坂 正太（シラスカ ショウタ）	研究室		教職課程	
E-mail	shirasaka@fit.ac.jp	実務経験			
キーワード	Artificial Intelligence (AI)、Information and Communication Technology (ICT)、Internet of Things (IOT)、ビッグデータ、リテラシー	関連リンク			
授業概要・目的	<p>情報通信技術の向上によって、ビッグデータの収集は比較的容易になりつつある。そのため、探索的な分析によってデータから新たな価値を創造することにつながるデータサイエンス、データを活用した機械学習によって様々な仕事を自動化することができる人工知能（AI）に注目が集まっている。そこで本講義は、データサイエンス・AIの動向及び分析結果をもとに、これからの社会の在り方を考察することができる基礎的素養を主体的に身に付けさせることを目的とする。また、データサイエンス・AIを活用することで我々人間の生活をどのように豊かなものにできるのかという視点を持ち、人間中心の適切な判断を行うために必要なリテラシーを獲得することを目的とする。</p> <p>※この授業は15回すべて遠隔方式となります</p>				
修得する知識・能力（DP）	関与度	達成目標			
A 多面的理解	○	データを通して社会の変化を読み取ることができることを理解している。			
B 社会的責任	◎	これからの社会を考察する上で、人間中心の適切な判断の重要性を理解している。			
C 数量的スキル・リテラシー	○	量的データを解釈する方法を理解している。			
D 専門知識					
E 課題解決力	○	現在のAIに何ができて、何ができないのか理解している。			
F コミュニケーション	○	データ・AIの利活用によって、これからの社会を考察することができる。			
G 主体性	◎	配信動画を活用し、継続的な学習を行うことができる。			

H	実行性		
I	協働性		
.	授業内容（*はAL実施）	授業外の学修内容	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.ガイダンス 2.社会で起きている変化 3.社会で活用されているデータ 4.データ・AIの活用領域 5.データ・AI利活用のための技術（1）－データの解析－ 6.データ・AI利活用のための技術（2）－AIにできることとできないこと－ 7.データ・AI利活用の現場 8.データ・AI利活用の最新動向 9.データを読む（1）－データの特徴－ 10.データを読む（2）－複数のデータとその関連性－ 11.データを説明する 12.データを扱う 13.データ・AIを扱う上での留意事項 14.データを守る上での留意事項 15.まとめ 	<p>毎回の講義後に小テストを行う。小テストの解説を行う回もあるので、必ず期日までに解答を行うこと。加えて、授業で行ったテーマでのレポートを課す。そのため、毎回240分程度の授業外学習を確保すること。</p>	
ICTの活用	<p>講義動画をMicrosoft streamによって、配信する。 そのため、講義動画を視聴できる環境を整えておくこと。 また、大学から支給されるメールアドレスを使って、課題提出の確認を行います。 @bene.fit.ac.jpのメールアドレスのメールを読める状態にしておくこと。</p>		
教科書	北川源四郎・竹村彰通編,2021『教養としてのデータサイエンス』		
参考書	特になし		
履修に必要な知識・能力	<p>オンデマンド型の講義となるため、自身を律して学習に取り組めることが求められます。 そのため、指定された時間に動画を視聴し、期日までに課題を提出する時間管理能力が必要です。</p>		
関連科目	関連科目なし		

成績評価方法					
観点 \ 方法	理解度（達成度）確認テスト・学期末試験	小テスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	その他
知識・技能（A・C・D）		○	○		
倫理・責任（B）					
汎用的能力（E・F）					
態度・行動（G・H・I）		○	○		
評価割合		45	55		
成績評価の留意点	毎回の授業で小テストを行う。そのため、期日内に必ず講義動画を視聴し解答を行うこと。				

履修上のアドバイス	本講義は、オンデマンド型で行います。そのため、主体的に学習に臨む態度が非常に重要となります。1回1回の講義に集中して取り組み、毎回の小テスト及びレポートでその学習成果を確認していきましょう。
オフィスアワー	月曜日 13:00-14:00
昨年度の授業アンケート集計結果	

2 教養力育成科目一覧

区分	科目名	単位	必・選	卒業に必要な単位数	
基礎科目	知と教養	2	選択	10単位以上取得 ◆生命環境化学科では進級条件および卒業要件の単位に含めない ※生命環境化学科、電気工学科は必修、電子情報工学科、知能機械工学科は選択	
	文化・社会	日本国憲法	2		選択
		市民生活と法	2		選択
		現代倫理	2		選択
		コミュニケーションの心理学	2		選択
		日本文学	2		選択
		歴史学概論	2		選択
		九州学	2		選択
		地理学概論	2		選択
		社会学入門	2		選択
		経済学入門	2		選択
		異文化理解	2		選択
		地域創生入門	2		選択
		日本事情 I (留学生科目)	2		選択
	日本事情 II (留学生科目)	2	選択		
	自然・情報	生命と生態系 ◆	2		選択
		地球と環境 ◆	2		選択
		物質と化学 ◆	2		選択
自然と科学 ◆		2	選択		
AI データサイエンス基礎		2	選択		
	コンピュータ入門 (工学部※、社会環境学部のみ)	2	必修/選択		
キャリア科目	キャリア形成	2	必修	4単位以上取得	
	コミュニケーション基礎	2	必修		
	日本語表現法	2	選択		
	インターンシップ I	2	選択		
	インターンシップ II	2	選択		
外国語科目	Advanced English A	2	選択	8単位以上取得、うち1・2年次の英語科目8単位を含む。	
	Advanced English B	2	選択		
	Advanced English C	2	選択		
	Advanced English D	2	選択		
	English A	2	選択		
	English B	2	選択		
	English C	2	選択		
	English D	2	選択		
	Academic English A	2	選択		
	Academic English B	2	選択		
	Academic English C	2	選択		
	Academic English D	2	選択		
	Conversation A	2	選択		
	Conversation B	2	選択		
	Conversation C	2	選択		
	Conversation D	2	選択		
	中国語 I	2	選択		
	中国語 II	2	選択		
韓国語 I	2	選択			
韓国語 II	2	選択			
日本語 I (留学生科目)	2	選択			
日本語 II (留学生科目)	2	選択			
ウェルネス科目	ウェルネス基礎	2	必修	2単位以上取得	
	ウェルネス応用	2	選択		
教職科目	《別途》 P42～ 参照			※該当者のみ履修	

工学部 ・ 社会環境学部	上記の他、教養力育成科目から2単位以上、合計26単位以上
情報工学部	上記、合計24単位以上

3 年次別授業科目表

福岡工業大学工学部履修要項

別表 年次別授業科目表

(工学部) 各学科共通 教養力育成科目表

(科目名の右側の数字は単位数、○印は必修科目)

区分	年次	1年次		2年次		3年次		4年次													
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期												
基礎科目	文化・社会	知と教養	2																		
		日本国憲法	2	市民生活と法	2	日本国憲法	2	市民生活と法	2												
		現代倫理	2	コミュニケーションの心理学	2	現代倫理	2	コミュニケーションの心理学	2												
		日本文学	2	歴史学概論	2	日本文学	2	歴史学概論	2												
		九州学	2	地理学概論	2	九州学	2	地理学概論	2												
		社会学入門	2	経済学入門	2	社会学入門	2	経済学入門	2												
		異文化理解	2	地域創生入門	2	異文化理解	2	地域創生入門	2												
	自然・情報	日本事情Ⅰ(留学生科目)	2	日本事情Ⅱ(留学生科目)	2																
		生命と生態系	2	地球と環境	2	生命と生態系	2	地球と環境	2												
		物質と化学	2	自然と科学	2	物質と化学	2	自然と科学	2												
		AI データサイエンス基礎	2			AI データサイエンス基礎	2														
		コンピュータ入門	2			コンピュータ入門	2														
キャリア科目	キャリア形成	②	コミュニケーション基礎	②	インターンシップⅠ	2	日本語表現法	2	インターンシップⅡ	2											
外国語科目	Advanced English A	2	Advanced English B	2	Advanced English C	2	Advanced English D	2	Academic English A	2	Academic English B	2	Academic English C	2	Academic English D	2					
	English A	2	English B	2	English C	2	English D	2	Conversation A	2	Conversation B	2	Conversation C	2	Conversation D	2					
									中国語Ⅰ	2	中国語Ⅱ	2									
									韓国語Ⅰ	2	韓国語Ⅱ	2									
	日本語Ⅰ(留学生科目)	2	日本語Ⅱ(留学生科目)	2																	
ウェルネス科目	ウェルネス基礎	②	ウェルネス応用	2																	

[注1] 基礎科目から10単位以上、キャリア科目から4単位以上、外国語科目から8単位以上(うち1・2年次の英語科目8単位)、ウェルネス科目から2単位以上、その他教養力育成科目から2単位以上、合計26単位以上を取得しなければならない。なお、基礎科目のうち「生命と生態系」「地球と環境」「物質と化学」「自然と科学」は生命環境化学科では進級条件および卒業要件の単位に含めない。

[注2] 英語科目のうち「Advanced English A～D」、「English A～D」については、習熟度別に指定されたどちらかの科目を、トピックスを選択して受講するものとする(トピックスの受講人数は希望者数に応じて調整をする場合がある)。また、「Academic English」・「Conversation」は、「Advanced English A～D」もしくは「English A～D」の単位を取得した場合に受講できる。

[注3] 基礎科目のうち「コンピュータ入門」は生命環境化学科・電気工学科では必修科目、電子情報工学科・知能機械工学科では選択科目である。

[注4] 「日本語Ⅰ」「日本語Ⅱ」「日本事情Ⅰ」「日本事情Ⅱ」は留学生のみ受講できる。

[注5] 協定校(日本語センター)からの留学生は、日本語能力試験(N2)に合格しなければ、「卒業研究」を履修することができない。

[注6] 「AI データサイエンス基礎」は主に遠隔授業を実施する。

3 年次別授業科目表

福岡工業大学情報工学部履修要項

別表 年次別授業科目表

〔情報工学部〕各学科共通 教養力育成科目表

(科目名の右側の数字は単位数、○印は必修科目)

区分	年次	1年次		2年次		3年次		4年次								
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期							
基礎科目	文化・社会	知と教養	2													
		日本国憲法	2	市民生活と法	2	日本国憲法	2	市民生活と法	2							
		現代倫理	2	コミュニケーションの心理学	2	現代倫理	2	コミュニケーションの心理学	2							
		日本文学	2	歴史学概論	2	日本文学	2	歴史学概論	2							
		九州学	2	地理学概論	2	九州学	2	地理学概論	2							
		社会学入門	2	経済学入門	2	社会学入門	2	経済学入門	2							
		異文化理解	2	地域創生入門	2	異文化理解	2	地域創生入門	2							
		日本事情Ⅰ(留学生科目)	2	日本事情Ⅱ(留学生科目)	2											
		自然・情報	生命と生態系	2	地球と環境	2	生命と生態系	2	地球と環境	2						
			物質と化学	2	自然と科学	2	物質と化学	2	自然と科学	2						
AI データサイエンス基礎	2				AI データサイエンス基礎	2										
キャリア科目	キャリア形成	②	コミュニケーション基礎	②	インターンシップⅠ	2	日本語表現法	2	インターンシップⅡ	2						
外国語科目	Advanced English A	2	Advanced English B	2	Advanced English C	2	Advanced English D	2	Academic English A	2	Academic English B	2	Academic English C	2	Academic English D	2
	English A	2	English B	2	English C	2	English D	2	Conversation A	2	Conversation B	2	Conversation C	2	Conversation D	2
									中国語Ⅰ	2	中国語Ⅱ	2				
									韓国語Ⅰ	2	韓国語Ⅱ	2				
	日本語Ⅰ(留学生科目)	2	日本語Ⅱ(留学生科目)	2												
ウェルネス科目		ウェルネス基礎	②	ウェルネス応用	2											

[注1] 基礎科目から10単位以上、キャリア科目から4単位以上、外国語科目から8単位以上(うち1・2年次の英語科目8単位)、ウェルネス科目から2単位以上、合計24単位以上を取得しなければならない。

[注2] 英語科目のうち「Advanced English A～D」、「English A～D」については、習熟度別に指定されたどちらかの科目を、トピックスを選択して受講するものとする(トピックスの受講人数は希望者数に応じて調整をする場合がある)。また、「Academic English」・「Conversation」は、「Advanced English A～D」もしくは「English A～D」の単位を取得した場合に受講できる。

[注3] 「日本語Ⅰ」「日本語Ⅱ」「日本事情Ⅰ」「日本事情Ⅱ」は留学生のみ受講できる。

[注4] 協定校(日本語センター)からの留学生は、日本語能力試験(N2)に合格しなければ、「卒業研究」を履修することができない。

[注5] 「AI データサイエンス基礎」は主に遠隔授業を実施する。

3 年次別授業科目表

福岡工業大学社会環境学部履修要項

別表 年次別授業科目表

〔社会環境学部〕 社会環境学科 | 教養力育成科目表

(科目名の右側の数字は単位数、○印は必修科目)

区分	年次	1年次		2年次		3年次		4年次													
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期												
基礎科目	文化・社会	知と教養	2																		
		日本国憲法	2	市民生活と法	2	日本国憲法	2	市民生活と法	2												
		現代倫理	2	コミュニケーションの心理学	2	現代倫理	2	コミュニケーションの心理学	2												
		日本文学	2	歴史学概論	2	日本文学	2	歴史学概論	2												
		九州学	2	地理学概論	2	九州学	2	地理学概論	2												
		社会学入門	2	経済学入門	2	社会学入門	2	経済学入門	2												
		異文化理解	2	地域創生入門	2	異文化理解	2	地域創生入門	2												
		日本事情Ⅰ(留学生科目)	2	日本事情Ⅱ(留学生科目)	2																
		生命と生態系	2	地球と環境	2	生命と生態系	2	地球と環境	2												
		物質と化学	2	自然と科学	2	物質と化学	2	自然と科学	2												
		AI データサイエンス基礎	2			AI データサイエンス基礎	2														
		コンピュータ入門	2			コンピュータ入門	2														
		外国語科目	自然・情報	キャリア形成	②	コミュニケーション基礎	②	インターンシップⅠ	2	日本語表現法	2	インターンシップⅡ	2								
				Advanced English A	2	Advanced English B	2	Advanced English C	2	Advanced English D	2	Academic English A	2	Academic English B	2	Academic English C	2	Academic English D	2		
外国語科目		English A	2	English B	2	English C	2	English D	2	Conversation A	2	Conversation B	2	Conversation C	2	Conversation D	2				
										中国語Ⅰ	2	中国語Ⅱ	2								
										韓国語Ⅰ	2	韓国語Ⅱ	2								
		日本語Ⅰ(留学生科目)	2	日本語Ⅱ(留学生科目)	2																
ウェルネス科目		ウェルネス基礎	②	ウェルネス応用	2																

〔注1〕 基礎科目から10単位以上、キャリア科目から4単位以上、外国語科目から8単位以上(うち1・2年次の英語科目8単位)、ウェルネス科目から2単位以上、その他教養力育成科目から2単位以上、合計26単位以上を取得しなければならない。

〔注2〕 英語科目のうち「Advanced English A～D」、「English A～D」については、習熟度別に指定されたどちらかの科目を、トピックスを選択して受講するものとする(トピックスの受講人数は希望者数に応じて調整をする場合がある)。また、「Academic English」・「Conversation」は、「Advanced English A～D」もしくは「English A～D」の単位を取得した場合に受講できる。

〔注3〕 「日本語Ⅰ」「日本語Ⅱ」「日本事情Ⅰ」「日本事情Ⅱ」は留学生のみ受講できる。

〔注4〕 「AI データサイエンス基礎」は主に遠隔授業を実施する。

福岡工業大学FD推進機構規程

(目的)

第1条 この規程は、福岡工業大学学則第4条の2に基づき、福岡工業大学FD推進機構(以下「機構」という。)の業務運営に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(定義)

第2条 この規程におけるFD (Faculty Development) とは、本学における教育内容及び方法を改善し向上させるための組織的な諸取組をいう。

(業務)

第3条 機構は、FDに関する企画、開発、実施及び支援を行うことを設置の目的とし、次の業務を担当する。

- (1) 具体的取組の立案、実施に関すること
- (2) 学部等における取組の支援に関すること
- (3) 関連情報の収集および提供に関すること
- (4) FD活動にかかる補助金申請に関すること
- (5) その他設置の目的達成に必要な事業に関すること

(機構長)

第4条 機構に機構長を置き、学長をもって充てる。

(部会の設置及び実施事項)

第5条 第3条に定める業務を具体的に推進するために、次の各部会を設置し、機構長のもとに置く。

- (1) 工学部会
 - (2) 情報工学部会
 - (3) 社会環境学部会
 - (4) 大学院部会
 - (5) 教養力育成センター部会
- 2 各部会に部会長を置き、前項第1号乃至第3号の部会については学部長を、同第4号の部会については研究科長の中から、機構長が指名した者を、同第5号の部会については、教養力育成センター長を充てる。
- 3 各部会は、原則として各学科及び各専攻から選出された者で構成される。
- 4 各部会の実施事項は、機構長との協議を経て各部会が決定する。
- 5 部会に規程を設ける場合は、次条に定める運営委員会の議を経なければならない。

(運営委員会)

第6条 第3条に定める業務に関し全学的見地から審議、調整を行い、効果的な運営を図るため、機構に運営委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(構成)

第7条 委員会は、次の委員をもって構成する。

(1) 機構長

(2) 各部部长、教務部長、学生部長

2 委員会に委員長を置き、機構長をもって充てる。

(招集)

第8条 委員会は委員長が招集し、議長となる。

2 委員の3分の1以上から開催の申し入れがあったときは、委員長はこれを招集しなければならない。

3 委員長に事故あるときは、委員長の指名する者がその職務を代行する。

(会議)

第9条 委員会は、委員の3分の2以上の出席をもって成立する。

2 議事は、出席委員の過半数の賛成により決し、可否同数のときは、議長が決する。

(委員以外の出席)

第10条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を委員会に出席させることができる。

ただし、議決に加わることはできない。

(ワーキンググループの設置)

第11条 委員会は、必要に応じてワーキンググループを設置することができる。

2 ワーキンググループは、委員会で必要を認めたFD課題の検討又は推進を行い、実施事項等を委員会に報告するものとする。

3 ワーキンググループにグループ長を置き、委員長が指名した者をもって充てる。

4 ワーキンググループのメンバー構成は当該グループ長が決定する。

(特任教員)

第12条 機構は、必要に応じて機構長のもとに特任教員を置くことができる。

2 特任教員は、機構長が必要を認めたFD課題の検討又は推進を行う。

3 特任教員の任用は、学校法人福岡工業大学特任教員嘱託規程による。

(推進室)

第13条 機構長並びに第5条に定める各部会及び第11条のワーキンググループの活動を補佐し、本規程に係る事務を所掌するためにFD推進室を置く。

(報告)

第14条 機構長は委員会の審議内容について、大学教授会及び大学院研究科委員会に報告し、承認を得なければならない。なお、この報告は各部会の長に委嘱することができる。

(改廃)

第15条 この規程の改廃は、大学教授会及び大学院研究科委員会の議を経るものとする。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行し、福岡工業大学教育改善推進委員会規程（平成18年10月1日施行）および福岡工業大学大学院教育改善委員会規程（平成16年6月25日施行）は廃止する。

附 則

この規程は、平成22年12月21日から施行する。

附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

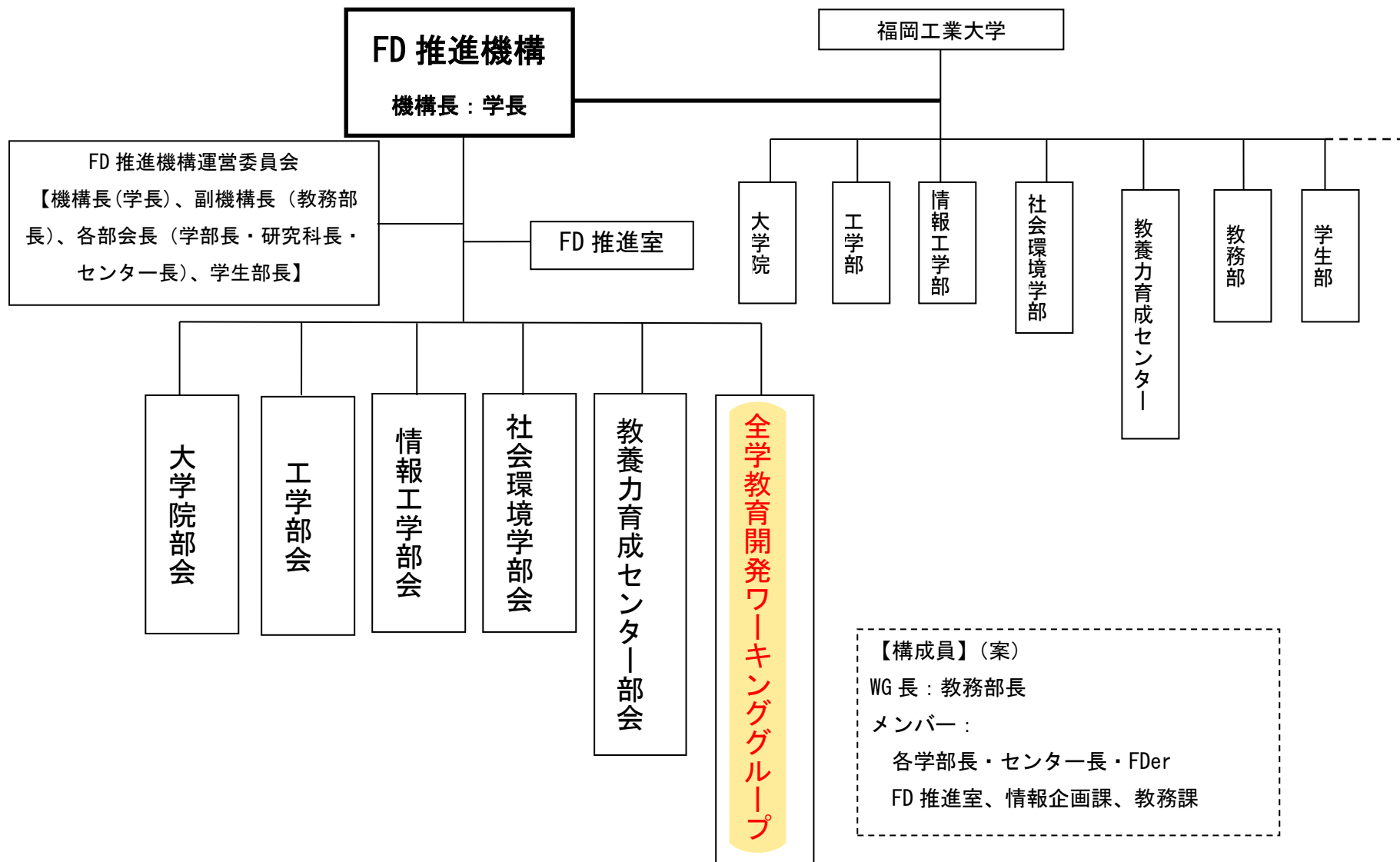
附 則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

FD 推進機構組織図



2022/04/18 FD 推進機構運営委員会

2022 年度 FD 推進機構重点実施事項について

FD 推進機構長（学長）

I 第 9 次 MP に基づく 2022 年度 FD 推進機構重点実施事項

1. アセスメントプラン（学修成果の評価・改善の方針）に基づく教育点検の実質化
2. 学生の主体性育成と自律的学修の習慣化
3. 教育力向上のための FD 活動の推進
4. 教育改革を推進するためのマネジメント改革

II 具体的実施事項**1. アセスメントプラン（学修成果の評価・改善の方針）に基づく教育点検の実質化**

2021 年度から本運用となったアセスメントプランを基に、各レベルでの教育点検活動の実質化を図る。今期における教育点検では、各 FD 部会及び FD 推進機構運営委員会を通じて、以下の事項を推進する。

(1) 授業科目レベル

2021 年度から、2 年間で全カリキュラムを点検することとし、各教員は非常勤講師も含めて、各学科・センターで決定された科目の点検を行う。また、2022 年度から、対面授業の中での遠隔方式（半数まで）とともに、教務委員会で承認を得た遠隔授業科目が実施されることから、教育効果の検証の視点として注視する。

(2) カリキュラム（学部学科・教養力育成科目）レベル

カリキュラム全体からの視点で、科目群（部門別）、学年などの観点から検証を行う。検証の結果、学部学科・教養科目としての教育目標に照らし、カリキュラム改正の議論につながるよう、授業内容や評価方法の変更など、必要に応じた改善を実施する。2020 年度コロナ禍での成績評価状況を踏まえ、2021 年度科目の点検においては、成績評価の目安（科目合格率 70%）を設定し、目安から著しく外れる科目について検証を行った。その結果、2021 年度前期科目では、著しく目安を外れた科目の状況は改善されてきており、2021 年度後期科目の状況を踏まえ、同目安を成績評価ガイドラインに明記することについて検討を進める。

また、合同 FD 部会（FD 推進機構長・同副機構長・学部長・教養力育成センター長・学科長・FD 委員出席）を開催し、学科およびセンターの単位で教育点検に関する実践例を報告し、他学部他学科（教養力育成センター）からの改善意見を直接聴取する。

(3) 全学レベル

- (1) (2) の実施結果を踏まえ、3 ポリシーの適切性についての点検・評価を行う。

2. 学生の主体性育成と自律的学修の習慣化

(1) 能動的学修態度の涵養（主体性の育成）と成果の可視化

「能動的学修態度（主体性）」についての評価観点であるディプロマポリシーの G、H、I の各項目については、アセスメント科目の評価基準に基づく課題（「卒研・卒論評価シート」など、課題に対応するルーブリックやチェックリストを用いた評価）での評価を行う。

(2) 自律的学習の習慣化

自律的学修の習慣化を図るため、学生レベルのアセスメントの実践を図る。具体的には、学習ポートフォリオ（FIT-AIM）を活用した目標設定と振り返り支援、外部アセスメントテスト受検と結果のフィードバック等の取組を、教養力育成センターを起点に実施する。

3. 教育力向上のための FD 活動の推進

全学教育開発 WG では、今後の本学の全学的な教育開発の方向性を検討するものとし、以下の事項を推進する。

(1) FD 研修会（FD Café）の運営と FD 研修の体系化

教育手法の D X と教員の教育改善活動の高度化を目指し、ICT を活用した AL 型授業の支援として継続実施するとともに、勤続年数や役職に応じた FD 研修を検討・実施、固定化された参加者の拡大を図る。

(2) 横断的で柔軟な教育プログラムの実施

AI/データサイエンス教育認定制度への対応 や SDGs 等をテーマにした学部横断型のプログラム実施、他大学との単位互換の取り組みの検討を推進する。

(3) 教学関連データの収集・可視化

教学関連データ（成績分布、学生調査結果等）の収集を継続し、学生個別の学修成果および学部・全学における教育成果として、可視化を推進する。

(4) 学生による授業支援・授業改善活動の推進

クラスサポーター（CS）の活動を継続し、授業サポート制度の活発化を行うとともに、学生による授業改善活動（FIT-Join）を推進する。

4. 教育改革を推進するためのマネジメント改革

(1) FD 推進機構の再編検討（2022 年度内検討、2023 年度新組織稼働）

FD 推進機構を再編し、「大学教育開発推進機構（仮称）」として意思決定に教員関与を強め、教学 IR を推進・活用しながら教学マネジメント指针对応と全学的な教育システムの企画実施を担う組織として機能させる。

(2) 新たな人材育成に向けた全学 D P の策定（2022～2023 年度内に策定・改訂、2024 年度から全学・学部学科で新 D P 実施）

新時代に対応できる実践型人材の輩出に向け、脱・J A B E E 準拠での全学 D P を策定し、連動して学部・学科 D P の改訂につなげる。

以上

福岡工業大学 内部質保証の方針

1. 基本的な考え方

教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行う。組織的、継続的及び系統的に、自己評価・点検項目並びに方法を設定し、点検及び評価を実施することで質を保証し、改善・向上に取り組むとともに、その成果を公表することで社会に対する説明責任を果たしていく。

2. 内部質保証の組織体制

(1) 内部質保証の実施

① 全学内部質保証推進会議

大学全体の内部質保証に責任を負う組織として、学長を委員長とし、副学長、学部長、研究科長及び教務部長、学生部長を構成員とする全学内部質保証推進会議を置く。この推進会議において、各学部・研究科・その他の組織における点検・評価内容について、全学的観点から検証、支援、助言を行う。全学共通の教育目標の設定、全学共通の自己評価項目の設定及び点検、全学的観点からの自己評価の実施、全学的観点からの教育研究活動の改善に関することを審議する。

全学内部質保証推進会議の事務は経営企画課が担当する。

(2) 定期的な自己点検・評価活動

① 自己点検・評価委員会

部門別の自己点検・評価を推進するための組織として、学長を委員長とし、副学長、学部長・研究科長、学科長、教務部長、学生部長、就職部長、図書館長、情報基盤センター長、総合研究機構長、入試広報部長、教養力育成センター長、事務局部長職等の役職者を構成員とする自己点検・評価委員会を置く。この委員会において、建学の精神及び教育方針に基づく教育目標の設定、自己評価項目の設定及び点検、自己評価の実施、教育研究活動等の改善について審議し、教授会に報告する。

自己点検・評価委員会の事務は経営企画室が担当する。

② 外部評価委員会

本学の実施する自己点検・評価活動の実質化、及び、客観性・適切性を確保するために学外有識者により組織される外部評価委員会を置く。外部評価委員会では、本学の自己点検・評価に関する検証を行う。

外部評価委員会の事務は経営企画室が担当する。

(3) 教育の質保証に向けた活動

① FD 推進機構

教育改善活動を推進するための組織として、学長を機構長とした FD 推進機構を置き、その運営を行うため、学部長、研究科長、教養力育成センター長、教務部長、学生部長及び就職部長により組織される FD 推進機構運営委員会を置く。FD 推進機構では、本学における教育内容及び方法を改善し向上させるための組織的な諸取組を推進する。FD 推進機構運営委員会では、FD に関する企画、開発、実施及び支援に関し全学的見地から審議、調整を行い、効果的な運営を図る。

FD 推進機構の下に、学部長・研究科長・教養力育成センター長を部会長とし、各学科・教養力育成センター・専攻から選出された者により組織される部会を設置し、教育改善の企画、開発、実施、支援、効果の検証といった PDCA サイクルを回していく。

特に、教育の質保証に向けた PDCA サイクルとして、アセスメントポリシーに基づき、FD 推進機構各部会にて学期毎に授業科目毎、カリキュラム毎、及び学部毎のレベルでの学修成果を検証し、評価を行い、さらに FD 推進機構運営委員会にて全学的な状況を集約し、大学としての組織的対応を検討、自己点検・評価委員会および教授会に報告する。

FD 推進機構運営委員会及び各部会については FD 推進機構 FD 推進室がその活動を補佐し、事務を所掌する。

3. 本学の内部質保証システム

本学の内部質保証に責任を負う組織は、全学内部質保証推進会議である。定期的な自己点検・評価活動および教育の質保証に向けた活動から得られた課題や改善点等は、全学内部質保証推進会議で審議し、方針や改善策等を決定、学長から各部局への要請を経て、方針や改善策等を共有・実行する。その後、その結果を検証し、全学内部質保証推進会議にフィードバックすることにより、内部質保証の PDCA サイクルが機能する。

また、教育の質保証に向けた活動を含む定期的な自己点検・評価活動の評価結果について、定期的に外部評価委員会の評価を受ける。外部評価委員会で指摘を受けた事項については、全学内部質保証推進会議で、必要な事項について協議し、改善の方針を決定する。自己点検・評価結果については学外に公表する。

4. 本学における諸方針と改善・改革のための行動指針等

本学では、建学の綱領および教育理念に基づき、大学においては学部・学科、大学院においては専攻を単位として、教育研究上の目的及び3つの方針（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシー）を設定し、行動指針とする。また、大学における学修成果の評価・改善の方針を定め、大学全体、カリキュラム（学部・学科）、授業科目の3つのレベルにおいて、ディプロマ・ポリシーを満たす人材が育成できているか、カリキュラム・ポリシーに即した学修が進められているかの視点で評価・改善を行う。

なお、教育研究および学生実態等に関する情報は、一元化して管理するとともに、必要な指標データを作成・分析し、改善に活用する。

また、本学は中期経営計画 MP（マスタープラン）を策定、MP に基づく部門別中期運営計画及び財政計画を各部局において単年度の行動計画（AP）に落とし込み、PDCA をまわし、MP 推進委員会（レビュー）委員会を中心に達成目標及びその進捗管理を客観的に点検し、定期的な検証を行っている

以上

令和 2 年 3 月 23 日 全学内部質保証推進会議承認

令和 2 年 4 月 13 日 自己点検・評価委員会承認

令和 2 年 4 月 公表

福岡工業大学 内部質保証システム

外部評価委員会



全学内部質保証推進会議

(全学的な内部質保証に責任)

報告



検証・支援・助言

評価

自己点検・評価委員会

小委員会 (学部・研究科等)

部局 (委員会/部署)

(定常的な自己点検・評価活動)

※小委員会および各部局で実施する点検・評価項目を、学生の受け入れ、学生支援、教育研究等環境等の大学基準に基づいて明確化し、同項目に基づいた点検・評価活動を実施

学部・研究科

教養力育成センター

教務部 (教務委員会)

学生部 (学生委員会)

入試広報部 (入試委員会)

就職部 (就職委員会)

図書館 (図書館運営委員会)

総合研究機構
(総合研究機構運営委員会)

情報基盤センター

学術支援機構

総務部

財務部

FD推進機構 (FD推進機構運営委員会)

(教育の質保証に向けた活動)

※アセスメントプランに基づく検証を実施

FD部会 (学部・研究科
・教養力育成センター)

■ 学科、専攻ごとの状況集約
学部としての組織的対応

報告

検証

学科・専攻

■ 教育プログラムの有効性検証

報告

検証

教員

■ 授業の内容・方法の有効性検証

アセスメントプラン（学修成果の評価・改善の方針）

本プランは、本学で定める3つのポリシーが適切であるかどうか、また3つのポリシーに基づき適切に機能しているかの視点から、学生が確実にディプロマ・ポリシーを達成できるようカリキュラムをマネジメントするため、大学、学部学科(カリキュラム)、授業科目、学生のそれぞれのレベルでの学修成果および教育成果を総合的に点検・評価し、その結果を教育・授業改善ならびに学生自身の成長に繋げていくことを目的とする。

1.全学レベル

在学中の学修状況および卒業時における学生のディプロマ・ポリシーの達成度について、カリキュラム、授業科目、学生に関する評価結果を集約し、大学全体レベルでの評価を行う。また、本学で得た学修成果が社会における学生の活躍に資するものとして卒業生に最低限備わっている知識・能力を保証するものになっているか、ディプロマ・ポリシーそのものが地域社会・産業界のニーズに即したものであるかを検証し、学修成果の水準設定の妥当性や具体性および3つのポリシーの整合性について評価し、その結果を大学全体の教育改善に繋げていく。

2.カリキュラムレベル

学部学科および教養力育成カリキュラムを対象に、学年ごとの学修状況およびカリキュラム全体を通して学修成果の達成状況を評価する。これにより、ディプロマ・ポリシーで示した資質能力の適切性や、カリキュラム・ポリシーに基づき設計されたカリキュラムの適切性、およびアドミッション・ポリシーで示した資質・能力の適切性を検証し、その結果をカリキュラムおよび教育内容の改善に繋げていく。

3.授業科目レベル

授業科目の成績評価は、別途定める成績評価ガイドラインに基づいて実施するとともに、成績分布、授業アンケート等の授業実施結果を用いて、各科目の達成目標の達成状況、達成目標とディプロマ・ポリシーの整合性、授業の内容・方法、成績評価の方法などを評価し、その授業点検結果を授業改善および適切な成績評価方法の改善に繋げていく。

4.学生レベル

本学の学生が学期ごとに学修状況の評価を行うとともに、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力の達成度を総括的に評価し、その結果を学生自身の学修成果の改善および自律的な成長に繋げていく。

[TOP](#) > [教育・国際](#) > [教育理念・方針](#) > アセスメントプラン（学修成果の評価・改善の方針）

部会長 各位

2022 年度（前期）教育点検活動の実施について

FD 推進機構長（学長）

本学アセスメントプラン（学修成果の評価・改善の方針）に基づく 2022 年度（前期）の教育点検活動について、下記のスケジュールにより実施いたしたく、各部会での取り組みをよろしくお願いいたします。

記

2022 年度（前期）教育点検スケジュール

レベル	時期(2022 年)	実施内容	担当者
科目	8～9 月	授業点検（前期）	科目担当教員
学科・センター	10～11 月	カリキュラム点検（前期）	FD 委員・学科長
学科・センター	11 月 FD 部会	カリキュラム点検（前期）実施報告	FD 委員

1. 授業点検（前期）

- 入力期間 前期：8/25 木（成績発表日）～9/26 月（後期授業開始日）
※上記期間中に入力された内容が、「授業実施結果科目一覧」に反映される
- 入力方法 FIT-AIM「授業点検書登録」に入力
- 対象科目 カリキュラムの全授業科目について各学科・センターにて定める実施計画に基づく
※2年間で全科目の授業点検を行う
※非常勤講師については事務局より全体周知を行い、対象科目となる非常勤講師への個別の依頼や催促は、各学科・センター（依頼窓口の教員）より行う

【参照指標】（番号はアセスメントチェックリストに対応）

資料名称	格納先（格納時期）	該当指標名称
FIT-AIM 授業実施結果	FIT-AIM（8/25 木）	⑤授業アンケート ⑦成績評価
myFIT 授業アンケート	myFIT 授業アンケート集計結果 （7/22 金）	⑤授業アンケート
FIT-AIM 授業の振り返り	FIT-AIM を随時確認	⑥授業振り返り

【依頼事項】

非常勤講師からの問い合わせ対応、点検される科目数把握のため、2022 年度授業点検の対象となる科目を FD 推進室までお知らせください。※2021 年度の入力実績込みの別添資料を各 FD 部会にて、エクセル形式で配布いたします。締切：8/19（金） 送付先：o-fd@fit.ac.jp

2. カリキュラム点検（前期）

- 点検期間 10月→11月の各FD部会にて実施報告
- 点検内容 前期実施の授業について、科目群およびカリキュラムとしての点検を各学科・センターとして行う
- 入力方法 ドキュメントセンターに格納されているフォーマットを利用（09FD推進室>00_アセスメント指標）

【参照指標】（番号はアセスメントチェックリストに対応）

資料名称	格納先（格納時期）	該当指標名称
授業アンケート集計結果	ドキュメントセンター（9月中旬）	⑤授業アンケート
取得単位数/平均GPA （教務委員会資料）	ドキュメントセンター（9月中旬）	⑧取得単位数/平均GPA/成績評価分布
取得単位数/平均GPA（経年データ）	統合データベース（9月中旬予定）	⑧取得単位数/平均GPA/成績評価分布
合格率、平均点（経年データ）	統合データベース（9月中旬予定）	⑧取得単位数/平均GPA/成績評価分布
授業実施結果科目一覧（前期）	ドキュメントセンター（10月初旬）	⑤授業アンケート ⑥授業振り返り ⑦成績評価 ⑧取得単位数/平均GPA/成績評価分布

3. 学生レベルのアセスメント

「今期の振り返りと次期の目標設定」

- 入力期間 前期：7～10月末
- 周知 全学部生に対して事務局より周知
- 内容 FIT-AIM「目標計画と振り返り」「学びの態度・行動の自己評価」

（1年前期）新入生オリエンテーション「FIT-inセミナー」にて、目標設定および振り返りの重要性のワークを実施。また、教養力育成科目『キャリア形成』にて、FIT-AIM「入学時の目標と計画」、「卒業後の将来像」、「入学時の自分」の入力指導を行う他、外部アセスメントテスト（マイナビMATCH Plus）受検を案内し、振り返りに繋げる。

（1年後期）協議中

※2021年度は、教養力育成科目『コミュニケーション基礎』にて「前期の振り返りと後期の目標設定」について入力指導を行い、グループワークを実施した。

4. 2022年度（後期・通期）教育点検活動のスケジュールイメージ

アセスメントプランに則り、2021年度同様の内容を、同様のスケジュールで実施する。ただし、2022年度FD推進機構重点実施事項に示している通り、FD推進機構再編の検討を2022年度中に行う

ため、2023 年度以降のスケジュール詳細は未確定。2021 年度教育点検活動の結果も踏まえて、スケジュール詳細は後日提示する。(3/13FD 推進機構運営委員会予定)

※2022 年度（後期）授業点検スケジュールのみ確定。

レベル	時期(2023 年)	実施内容
科目	3 月	授業点検（後期）2/18 土（成績発表日）～3/31 金
学科・センター	4 月	カリキュラム点検（後期）
学科・センター	5 月	カリキュラム点検実施報告（後期）
学科・センター	6 月	学科・センター教育点検
学科・センター	7 月	学科・センター教育点検報告
学部・センター	8 月	学部・センター教育点検
学部・センター	9 月	学部・センター教育点検報告
全学	10 月	学科・センター教育点検に関する相互評価 （現合同 FD 部会のイメージ）
全学	11 月	全学教育点検
全学	12 月	全学教育点検報告

以上

AIデータサイエンス基礎

(リテラシーレベル教育プログラム)

<プログラム概要>

学修成果	<ul style="list-style-type: none">・データサイエンスの動向および分析結果を基にこれからの社会の在り方を考察することができる素養を主体的に身に付けることができる・データサイエンス・AIを活用することで人間の生活をどのように豊かなものにできるかという視点を持ち、人間中心の適切な判断を行うために必要なリテラシーを獲得する
修了要件	「AIデータサイエンス基礎」(2単位)を履修し単位を修得すること
特徴	<ul style="list-style-type: none">・全学共通の教養力育成科目として開講(全学部1年次生が卒業要件単位として履修可)・遠隔授業(オンデマンド型)で開講

福岡工業大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム

実践的な能力を育成

「データサイエンス基礎」、「データエンジニアリング基礎」、「AI基礎」の知識・技能の獲得(各学科専門科目)

共通科目「AIデータサイエンス実践」において実践的な演習を通じて課題解決のプロセスや手法を学ぶ

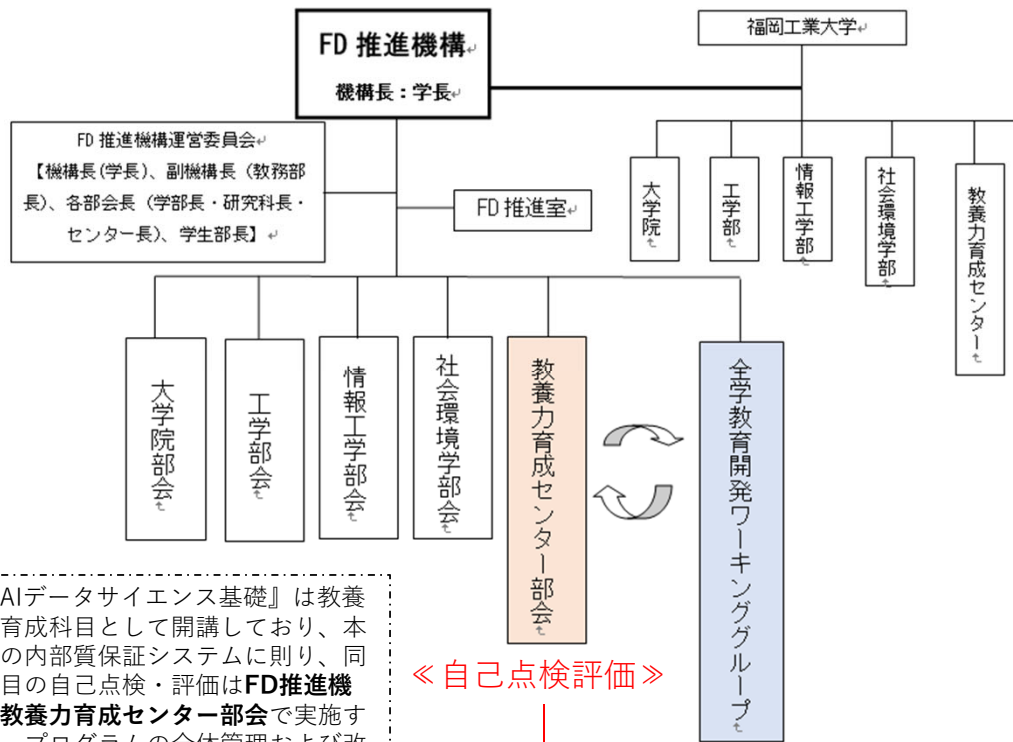
応用基礎教育プログラム

AIデータサイエンス基礎
(リテラシーレベル教育プログラム)

土台となる
リテラシーの獲得

数理・データサイエンス・AIの知識を基盤とし、地域や企業における課題解決に向けた実践力を伸ばす。

リテラシーレベル：『AIデータサイエンス基礎』実施体制（2022年度）



『AIデータサイエンス基礎』は教養力育成科目として開講しており、本学の内部質保証システムに則り、同科目の自己点検・評価は**FD推進機構教養力育成センター部会**で実施する。プログラムの全体管理および改善・進化のための取り組みは、**FD推進機構全学教育開発ワーキンググループ**で行う。

《自己点検評価》

《プログラムの改善・進化》

